




受付印		相続財産清算人選任申立書	
		(この欄に収入印紙800円分をはる。)	
			
収入印紙	円		
予納郵便切手	円		
(はった印紙に押印しないでください。)			

準口頭	関連事件番号	令和	年(家)	第	号
-----	--------	----	------	---	---

札幌 家庭裁判所 御中	申立人の 記名押印	裁判 太郎 	印
令和 2 年 10 月 1 日			

添付書類	(同じ書類は1通で足りません。審理のために必要な場合は、追加書類の提出をお願いすることがあります。) <input type="checkbox"/> 申立人の戸籍謄本(資格証明書) 通 (<input type="checkbox"/> 利害関係を証する書面: 金銭消費貸借契約書など) <input type="checkbox"/> 被相続人の戸(除)籍謄本・改製原戸籍謄本・戸籍附票 通 (出生時から死亡時までのすべての戸籍) <input type="checkbox"/> 被相続人の父母の戸(除)籍謄本・改製原戸籍謄本 通 (出生時から死亡時までのすべての戸籍) <input type="checkbox"/> 財産管理人候補者の住民票(戸籍附票) <input type="checkbox"/> 財産を証する資料 (<input type="checkbox"/> 不動産全部事項証明書)
------	---

申立人	住所	〒 060 - 0042 日中の連絡先電話番号 011 (221) 7281 北海道札幌市中央区大通西12丁目1番2号 (方)		
	フリガナ氏名	サイバン タロウ 裁判 太郎		
被相続人	被相続人との関係	※ 1 相続債権者 () 2 ○ 相続財産の分与を請求する者 3 特定受遺者 4 その他 ()		
	本籍	北海道 ○ 道 札幌市中央区大通西11丁目 府 県		
	最後の住所	〒 060 - 0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目2番4号		
	フリガナ氏名	サイバン ハナコ 裁判 花子	大正 ○ 昭和 20 年 4 月 1 日 生 平成	
死亡日	○ 平成 30 年 4 月 1 日	死亡当時の職業	無職	

(注) 太枠の中だけ記入してください。 ※の部分には当てはまる番号を○で囲み、4を選んだ場合には、()内に具体的に記入してください

申 立 て の 趣 旨

被相続人の相続財産について財産清算人を選任するとの審判を求める。

申 立 て の 実 情

[申 立 て の 理 由]

被相続人は、平成 令和 30 年 4 月 1 日に死亡したが、
 被相続人には戸籍上推定相続人がなく、
 相続人全員について、相続放棄の申述が受理されており、
 相続人がいることが明らかでないため。

[申立人が利害関係を有する事情・目的] ※ 複数選択可

- 1 相続債権者として、
 - (1) 債務の弁済を受ける
 - (2) 民事執行の申立てをする
 - (3) 相続財産に対する訴えを起こす
 - (4) 不動産の返還を受ける
- 2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する
- 3 特定受遺者
- 4 その他 ()

(詳細) ※債権の具体的内容及び額、特別縁故者といえる事情など、利害関係を有する具体的内容を記載してください。

被相続人は、平成 20 年 9 月ごろ認知症を発症し、同じころ申立人とも同居生活を始めた。以降申立人は被相続人と生計を同じくしており、かつ、被相続人が死亡するまで身の回りの世話や病院等への送迎を行い、療養看護に努めた。

※ このほか添付資料の「申立人が利害関係を有する事情・目的欄の記載例」を参考にしてください。

財産清算人候補者	住 所	〒 -		
		電話 () -		
	フリガナ氏名	裁判所に一任する		大正 昭和 平成 年 月 日生
	職 業		被相続人との関係	
	勤 務 先	電話 () -		

(注) 太枠の中だけ記入してください。

遺 産 目 録 (相続財産清算人選任申立用)

※ 各項目に該当するものがない場合には、「なし」と記載してください。

1 土 地 不動産全部事項証明書, 固定資産評価証明書

※ 相続分や共有持分等については、備考欄に記載してください。

※ 占有者がいる場合は備考欄に記載してください。

所 在	地番	地目	地積 (㎡)	評価額	備 考
札幌市中央区南〇条西〇丁目	〇番	宅地	122.00㎡	1,200,000	被相続人と同人の亡母との共有名義(持分各2分の1)であり、賃借人が占有している。

2 建 物 不動産全部事項証明書, 固定資産評価証明書

※ 相続分や共有持分等については、備考欄に記載してください。

※ 占有者がいる場合は備考欄に記載してください。

所 在	家屋番号	種類	構 造	床面積	評価額	備 考
札幌市中央区南〇条西〇丁目 〇番	123	居宅	木造陸屋根亜鉛メッキ銅板葺	111.23㎡	5,000,000	被相続人と同人の亡母との共有名義(持分各2分の1)であり、賃借人が占有している。

3 現 金

金 額	保管場所 (保管者)	備 考
30万5000円	申立人	被相続人からの預り金

4 預・貯金 (残高証明書(預貯金通帳のコピー))

金融機関名	種類	口座番号	金額	通帳保管者	備考
〇〇銀行〇〇支店	普通	1234567	2,100,000	申立人	最終記帳日 H30.9.1

5 有価証券 (株券・国債・社債・手形・小切手等)

有価証券の種類	銘柄・振出人等	額面金額	数量	評価額 (売却予定価格)
株式	〇〇株式会社		1,000	10,000,000円 (H30.9.1時点の株価を元に計算)

6 貸金等の債権

債権の種類	貸付日等	債務者名	金額	回収の見込み
賃料債権	H27.3月分から 未払い	財産太郎	1,300,000	なし (生活に困窮している様子)

7 その他

なし

8 負債等 ※ 申立時点で判明している概算額を記載してください。

項目	借入日等	債権者名	借入等金額	返済条件	残額
ショッピングクレジット	H29.3	株式会社〇〇	100,000	一括	100,000

申立人が利害関係を有する事情・目的欄の記載例

1 相続債権者として、

- (1) 債務の弁済を受ける
- (2) 民事執行の申立てをする
- (3) 相続財産に対する訴えを起こす
- (4) 不動産の返還を受ける

2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する

3 特定受遺者

4 その他 ()

(詳細) ※債権の具体的内容及び額、特別縁故者といえる事情など、利害関係を有する具体的内容を記載してください。

申立人は、被相続人に平成 28 年 1 月 1 日付けで 100 万円を貸し付けて

あり、残額 50 万円につき支払請求権を有している。

1 相続債権者として、

- (1) 債務の弁済を受ける
- (2) 民事執行の申立てをする
- (3) 相続財産に対する訴えを起こす
- (4) 不動産の返還を受ける

2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する

3 特定受遺者

4 その他 ()

(詳細) ※債権の具体的内容及び額、特別縁故者といえる事情など、利害関係を有する具体的内容を記載してください。

申立人は添付資料のとおり、被相続人に対する債務名義（判決）を有し

てあり、同債務名義に基づき、被相続人所有の不動産の強制競売を申し立

てる予定である。

1 相続債権者として、

- (1) 債務の弁済を受ける
- (2) 民事執行の申立てをする
- (3) 相続財産に対する訴えを起こす
- (4) 不動産の返還を受ける

2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する

3 特定受遺者

4 その他 ()

(詳細) ※債権の具体的内容及び額、特別縁故者といえる事情など、利害関係を有する具体的内容を記載してください。

申立人は、平成 29 年 2 月 1 日、横断歩道を歩行中、被相続人が運転し

ている自動車にはおられた。したがって、相続財産に対し、損害賠償請求

訴訟を提起する予定である。

- 1 相続債権者として、
 - (1) 債務の弁済を受ける
 - (2) 民事執行の申立てをする
 - (3) 相続財産に対する訴えを起こす
 - (4) 不動産の返還を受ける
 - 2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する
 - 3 特定受遺者
 - 4 その他 ()
- (詳細) ※債権の具体的内容及び額、特別縁故者といえる事情など、利害関係を有する具体的内容を記載してください。

申立人は、被相続人に対して申立人所有の居宅を賃貸していたところ、

被相続人が死亡したため、これの明渡しを請求する。

- 1 相続債権者として、
 - (1) 債務の弁済を受ける
 - (2) 民事執行の申立てをする
 - (3) 相続財産に対する訴えを起こす
 - (4) 不動産の返還を受ける
 - 2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する
 - 3 特定受遺者
 - 4 その他 ()
- (詳細) ※債権の具体的内容及び額、特別縁故者といえる事情など、利害関係を有する具体的内容を記載してください。

申立人は、平成 20 年ごろから被相続人と内縁関係にあり、以降被相続

人が死亡するまで生計を同じくしていた。

- 1 相続債権者として、
 - (1) 債務の弁済を受ける
 - (2) 民事執行の申立てをする
 - (3) 相続財産に対する訴えを起こす
 - (4) 不動産の返還を受ける
 - 2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する
 - 3 特定受遺者
 - 4 その他 ()
- (詳細) ※債権の具体的内容及び額、特別縁故者といえる事情など、利害関係を有する具体的内容を記載してください。

申立人は、平成 20 年ごろに被相続人が入院したあと死亡するまで、毎

日のように被相続人の病室を訪ね、リハビリの援助をするほか、被相続人

の日用品の購入など、療養看護に努めた。

※ 上記 2 例について、必ず特別縁故者の地位が認められるとは限りません。また、相続財産清算人が選任された場合に財産分与の申立が認められるとも限りません。

- 1 相続債権者として,
 - (1) 債務の弁済を受ける
 - (2) 民事執行の申立てをする
 - (3) 相続財産に対する訴えを起こす
 - (4) 不動産の返還を受ける

2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する

3 特定受遺者

4 その他 ()

(詳細) ※債権の具体的内容及び額, 特別縁故者といえる事情など, 利害関係を有する具体的内容を記載してください。

被相続人は添付資料のとおり公正証書遺言を作成しており, 同遺言によ

ると, 申立人に対して預貯金の全部を贈与するとされている。

- 1 相続債権者として,
 - (1) 債務の弁済を受ける
 - (2) 民事執行の申立てをする
 - (3) 相続財産に対する訴えを起こす
 - (4) 不動産の返還を受ける

2 特別縁故者として相続財産の分与を請求する

3 特定受遺者

4 その他 (**抹消登記請求権を有する者**)

(詳細) ※債権の具体的内容及び額, 特別縁故者といえる事情など, 利害関係を有する具体的内容を記載してください。

被相続人は申立人の所有する不動産に抵当権を設定しているところ, 原

債権は既に弁済により消滅しており, この抹消登記を請求する。